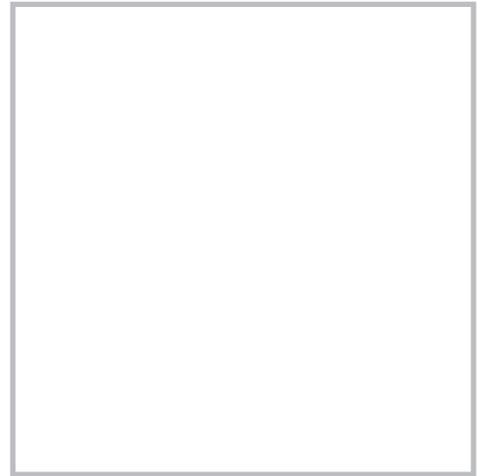




うことも多い（異汗性湿疹，**図 7.18**）。通常は数週間で落屑となり治癒する。多汗症を合併することもあるが，水疱の発生部位および内容は汗腺とは通常一致しない。季節の変わり目ごとに再発する症例もある。多くは原因不明であるが，金属アレルギーとして生じることがある。

ウイスコット オールドリッチ  
**9. Wiskott-Aldrich 症候群**  
 Wiskott-Aldrich syndrome

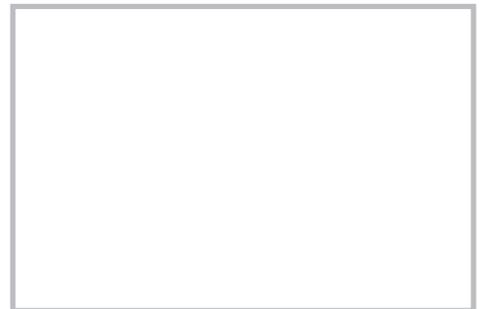
易感染性，血小板減少，湿疹を3主徴とする，X連鎖劣性遺伝疾患。WASP 遺伝子の異常による。皮膚病変として，湿疹性病変および点状出血・皮下出血が通常生後1か月以内に出現する。紫斑を伴う以外はアトピー性皮膚炎や脂漏性皮膚炎と同様である（**図 7.19**）。紫斑は血小板減少による。また，母体由来の免疫グロブリンの減少に伴い，免疫不全に由来する感染症が繰り返される。皮疹に対してはアトピー性皮膚炎に準じた治療が行われる。根本的治療は造血幹細胞移植である。



**図 7.17** 汗疱 (pompholyx)  
 手掌に多発する小水疱。



**図 7.18** 異汗性湿疹 (dyshidrotic eczema)



**図 7.19** Wiskott-Aldrich 症候群 (Wiskott-Aldrich syndrome)